



出前講座報告書

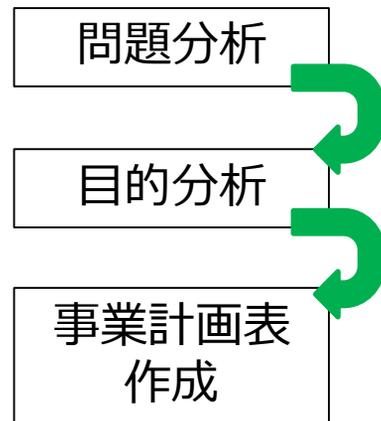
1回目：平成29年10月3日 福島県相双保健福祉事務所
2回目：平成29年11月20日 福島県相双保健福祉事務所

NO. 8

Project Cycle Management手法の 実践・応用

地域住民のニーズにあった保健事業を立案するために必要となるPCM（Project Cycle Management）手法の基礎知識を学びました。本研修は、2回コースで開催しました。

PCM手法（1日目） 講義・グループワークの様子



1回目は10月3日に開催し、PCM手法の基礎知識の講義およびグループワークを行いました。グループワークでは、事業計画を作成し（上位目標、プロジェクト目標、成果、活動、指標など）、研修会の最後に成果を共有しました。活発な意見交換がなされていました。



▲グループワークで事業計画を作成しています。

～講師紹介～



福島県立医科大学
総合科学教育研究センター
後藤あや

平成7年山形大学医学部卒業、平成10年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程（国際保健学）修了、平成12年山形大学大学院医学研究科博士課程（公衆衛生学）修了。

米国ポピュレーション・カウンシルのベトナム支部勤務を経て、平成14年より福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、平成28年度より総合科学教育研究センター教授に就任し、現在に至る。平成24年から1年間、ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム研究員。福島県の県民健康調査「妊産婦に関する調査」の副室長兼任、日本公衆衛生学会モニタリング・レポートシステム委員。

専門領域は、母子保健、国際保健、疫学、人材育成。

PCM手法（2回目） 講義・グループワークの様子



▲作成した事業計画をワールドカフェに準じた手法を用いて発表しました。

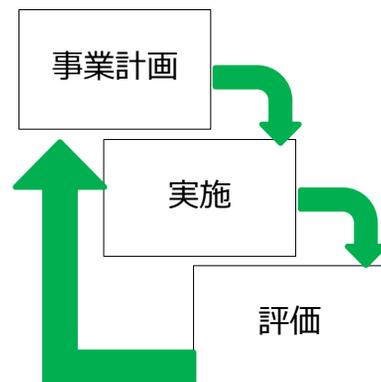
2回目は、11月20日に開催しました。グループまたは個別で取り組んだ事前課題（事業計画書の立案）を、ワールドカフェに準じた形式で発表しました。他の参加者からの意見を参考にして話し合いを重ね、事業計画を改訂しました。改訂版の事業計画は、目標と指標などが整理され、事業計画に厚みが増しました。

アンケート集計結果

評価項目	10月3日 ²⁾	11月20日 ³⁾
	そう思う ¹⁾	そう思う ¹⁾
研修の資料や進行について		
配布資料は適切だった	92%	100%
時間配分は適切だった	83%	79%
進行は適切だった	92%	100%
講義について		
講義内容が理解できた	100%	100%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	92%	100%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	92%	100%
話し合いについて		
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	92%	100%
あなたご自身について		
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	83%	79%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	75%	64%

* 復習ポイント *

- ・ 問題分析とは？
- ・ 事業評価の視点は？
- ・ 横断研究の特徴は？



1) : 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

2) : 10月3日の参加者は12名、アンケート回収は12名であった。

3) : 11月20日の参加者は15名、アンケート回収は14名であった。

編集後記

2回コースの研修でPCM手法の基礎知識から応用まで学びました。地域住民の健康の保持増進を目指す保健師には重要なスキルですので、日々の保健活動で活用できればと思います。私も日々の保健活動の中で、PCM手法の知識と技術を活用する機会を増やしていきたいと思います。（吉田）